

駒ヶ根市文化財

名称	猪垣
種別	歴史資料
所在地	赤穂北割二
説明	<p>中央アルプス(木曾山脈)の東麓には、現在も猪垣(ししがき)の跡が諸所に残っている。赤穂でも光前寺の本坊西庭園の奥から、北側山林中にかけて猪垣の遺構(いこう)が残存する。</p> <p>光前寺村の寛保(かんぽう)元年(1741)の文書に「獅子垣仕候」という記事が見られ、猪垣が築かれた年代を知ることができる。</p> <p>「当村方ハ山付之場故、猪鹿沢山ニ出難洪至極仕候、大豆蒔付 秋取揚まで年々 獵師を村抱ニいたし、其上手越えの場所ハ作場江小屋を懸出張、近所ハ銘々家ニ而日暮 夜明迄防止、誠ニ難儀仕候」</p> <p>上穂村「百姓四季仕事並食物書上」文政 13 年(1830)</p> <p>こうした記録に見られるように猪・鹿などけものの被害から田畑を守ることは、村人にとって死活の問題であった。</p> <p>猪垣は山側の土を反対側に掘り上げて土手を高く築き、上へ乱杭を立てて垣を結うという構築(『宮田村誌』参照)であった。光前寺裏山の猪垣は、光前寺村が自らの田畑を守るために作ったものである。猪垣は山裾線が明瞭に南北に走る中央アルプス東麓に築かれ、竜東山麓には、猪垣はほとんど見られないが猪の被害は現在も続き、竜東では防護柵を張って猪の侵入を防いでいる。</p>



本坊西庭園奥猪垣跡



本坊西庭園北西奥猪垣跡